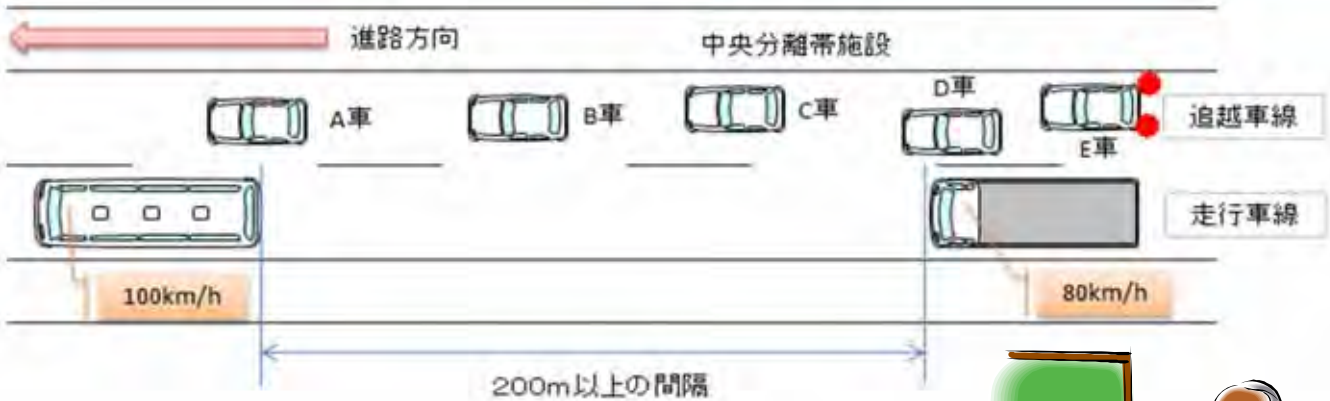
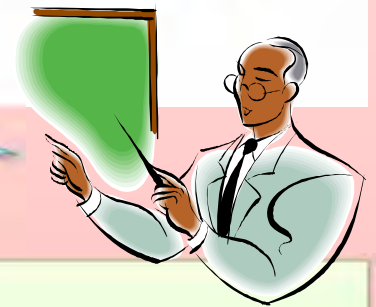


意外と知らない！安全な高速道路の走り方 ～リスクを知れば走りが変わる～

よくある！誤った高速道路の走り方 その①



最近の高速道路でよく見る光景です。「えっ、何が間違っているの？」と思われる方も多いのではないのでしょうか？この中に、重大事故や交通違反に繋がる問題点が沢山あるのです！1台1台何が問題か、運転手になった気持ちで確認してみましょう！！



【A車の状況】

A車は、トラックを追い越しても、ずっと追越車線を走っています。トラックの前には、A車が入る十分な間隔があります。A車の速度は110～120km/hといったところで、後ろには多くの車が続いています。

【A車のリスク】

- ① 後続車から煽られていると思うかもしれません。すると、徐々に速度が上がって、事故の危険が増していきます。
- ② 周囲を気にしない走り方に、後続車の左側追越しや車間距離不保持違反を誘発させ、事故の原因となります。
- ③ 交通渋滞の元になり、渋滞への追突事故など、重大な事故を誘発させます。

【B～D車の状況】

B～D車は、前車に続くことのみを考え、前へ前へと先を急ぐ運転手さんです。視線は前車のみ、後続車の追従状況にもあまり関心がなく、他車が割り込まれないように、車間距離も詰めて走っています。

【B～D車のリスク】

- ① 車間距離が狭いと、ブレーキを踏んで速度調整を図ろうとします。いつも前車の動静に過敏に気を遣い、知らぬ間に疲労が蓄積し、最後は追突事故へと繋がります。
- ② ゆったりとした気持ちで運転が出来なくなり、いつもイライラして前車に「いつまでも追越し走るな。」と言いながら、さらに車間距離が狭くなり、事故を発生させる可能性が高くなります。
- ③ 前車に続こうと速度が増し、速度超過違反や交通事故を引き起こす確率が高くなります。

【E車の状況】

E車は、ものすごい速度でD車に迫り、あおり立てています。ブレーキを踏んで急減速しています。トラックを抜いた後、左側追越しを始めるかも知れません。

【E車のリスク】

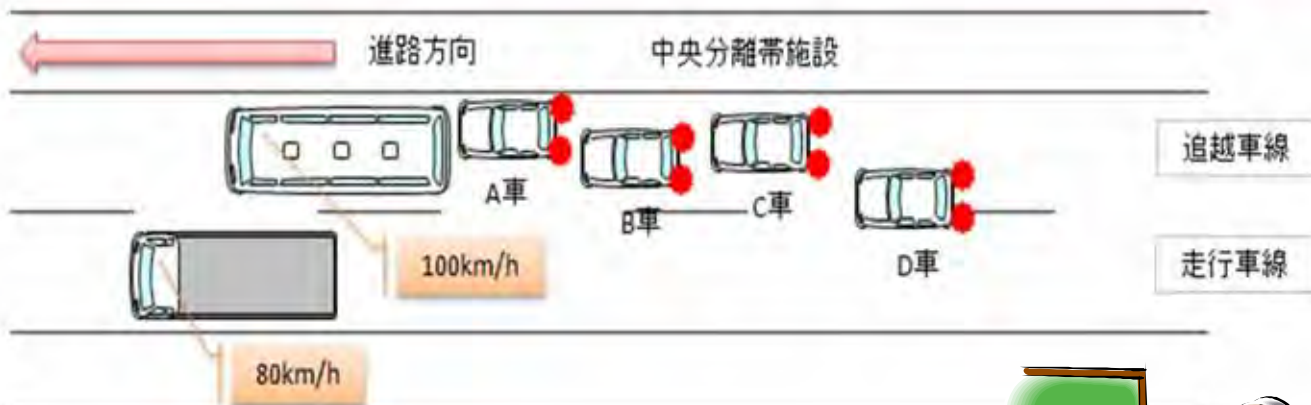
- ① もはや速度超過、車間距離不保持、通行帯違反等で検挙の対象となるでしょう。
- ② 前車がなくなれば速度は100km/hを遙かに超過し、さらに前方の集団に追い付こうとするでしょうし、単独事故や他車を巻き込んだ重大事故を誘発し、運転手さん自身の身体も無傷では済まないでしょう。

じゃあ、どうすればいいの？

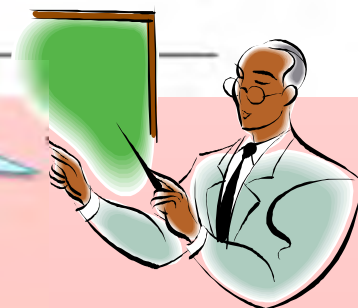
追越しが終わったら、走行車線に戻り、安全な速度を確認する。
ダラダラ追越し運転をやめるだけで、あなたも模範ドライバーに変身！ ストレス知らずで安全運転。明日に繋がるハイウェイ！

意外と知らない！安全な高速道路の走り方 ～リスクを知れば走りが変わる～

よくある！誤った高速道路の走り方 その②



速度の遅いトラックを追い越そうと、バスが追越車線に出てきました。追越車線を走行してきた乗用車が強めのブレーキを踏んで速度調整しています。「自分よりも遅い車が前にいるんだから、ブレーキを使って速度調整するのは当たり前だ。」と思う方、本当にそうでしょうか？問題点を確認してみましょう！



【バスの状況】

バスは、トラックに追い付きそうになったため、後方の安全を確認して進路変更しています。余裕をもって追越車線に移動したつもりでも、乗用車の速度が速かったのか、このような状況を作っていました。

【バスのリスクと対策】

- ① 後続車に急かされ、速度が上がる可能性があります。追越しが完了したら、こまめに走行車線に戻り、安全な速度と車間距離を維持して、乗客の安全を確保しましょう。
- ② 追越しのため、追越車線に進路変更する際は、後続車の接近状況や前車の状況・交通量を考慮して、予め方向指示をして進路変更しましょう。

【A～C車の状況】

A～C車は、バスが進路変更することをバスの右ウィンカーで知ったため、ブレーキを踏んで速度調整しています。随分車間距離が狭いようです。

【A～C車のリスク】

- ① もし、バスが前方に異常を感じて急ブレーキを踏んだら、間違いなくA～C車は玉突き追突事故を引き起こすでしょう。
- ② 頻繁なブレーキ操作は、事故を誘発するばかりか、交通渋滞を引き起こす原因となります。渋滞はバスが引き起こしているのではなく、あなたのブレーキランプが引き起こしているかも知れません。

【D車の状況】

D車は、減速したA～C車に驚き、急ブレーキを踏みながら走行車線に車体をはみ出すまで急ハンドルを切っています。幸い走行車線を走る他車がいなくて良かったけれど・・・。

【D車のリスク】

- ① 長時間、追越車線ばかり走行し疲労が蓄積していたため、前車の動静把握ができなかったのかも知れません。このままの状態で行き続ければ、追突事故となることが予想されます。
- ② 高速道路の三大死亡事故形態は「追突・単独・人に車が衝突する」事故です。追越車線一辺倒の走り方は、様々なリスクを背負っています。

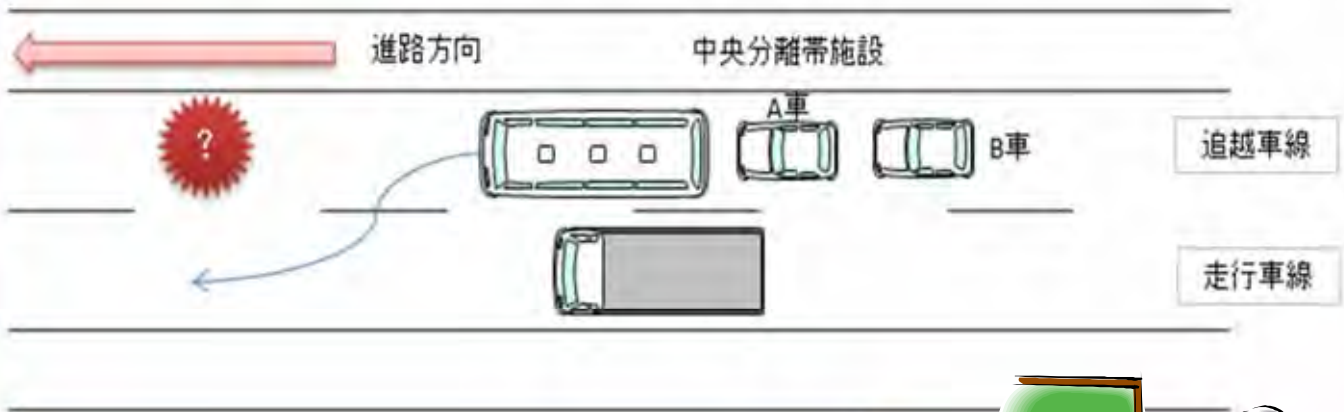
じゃあ、どうすればいいの？

「かも知れない」運転を励行する。

進路前方を走行する他車の動きに関心を持ち、予測運転に心掛ければ、あなたも模範ドライバーに変身！明日に繋がるハイウェイ！

意外と知らない！安全な高速道路の走り方 ～リスクを知れば走りが変わる～

よくある！誤った高速道路の走り方 その③



バスに続いて乗用車が追越車線を走っています。随分、車間距離が狭いようですが、大丈夫でしょうか？バスの運転手が、前方に何かを発見し走行車線に車線変更しました。さて、後続の乗用車はどうなるでしょうか？問題点を確認してみましょう！



【A車の状況】

A車は、バスの後方を車間距離を開けずに走っているため、バスの車体によってその前方の状況が確認出来ていません。

【A車のリスク】

- ① バスが走行車線に進路変更を始めたので、アクセルを踏み出しました。ところが、すぐ前方には落下物！（事故車両・故障車両・倒れた人・動物の死骸など）。急ブレーキを踏みますが、避けきれず衝突してしまいました。
- ② 急ブレーキをかけたことでB車に追突され、制御を失い、横転してしまいました。ベルトを締めていなければ車外放出。よくある事故です。

【B車の状況】

B車の運転手は、A車に続き先を急ぐことしか考えていません。バスが車線変更したら、加速しようと考えています。

【B車のリスク】

- ① バスが走行車線に進路変更を始めたので、A車に続こうとアクセルを踏み始めました。ところがA車が急ブレーキ！ブレーキを踏む間もなく追突してしまいました。
- ② または、A車との衝突はハンドル操作で免れましたが、走行車線を進行するトラックに衝突する事故を起こしてしまいました。

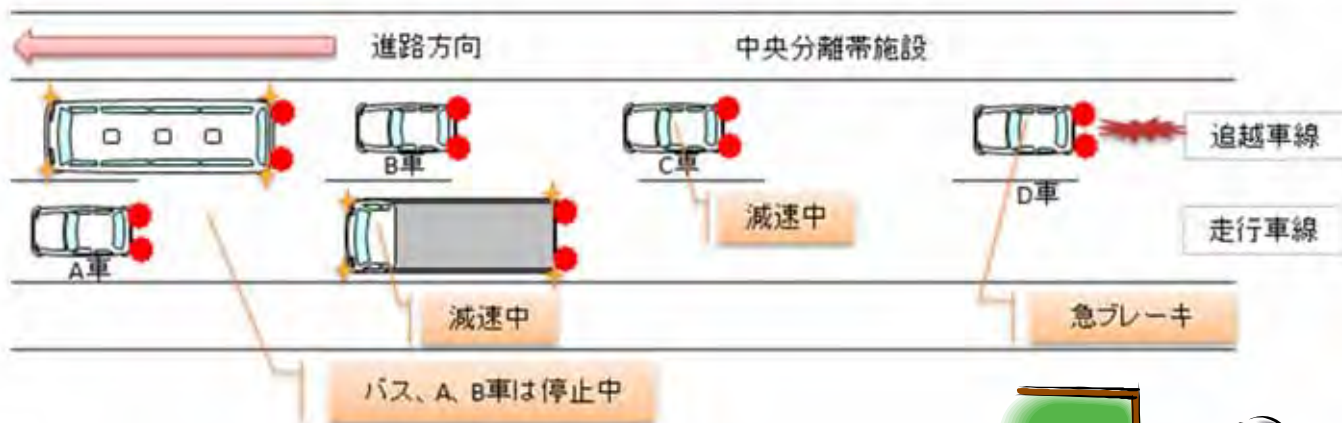
じゃあ、どうすればいいの？

高速道路は、落下物・故障車両・事故車両・立入等歩行者・動物進入など、あらゆる出来事が起こります。前車の進路前方の安全にも気を配り走りましょう。

たった1秒で約27m進む道路であるが故、予めの心構えがないと、どんなベテラン運転手でも咄嗟に対応出来ません。「自分は今、高速道路を走っているんだ。」と強く意識しながら、安全速度、十分な車間距離を保って走行すれば、あなたも模範ドライバー！
明日に繋がるハイウェイ！

意外と知らない！安全な高速道路の走り方 ～リスクを知れば走りが変わる～

よくある！誤った高速道路の走り方 その④



自然渋滞でしょうか？それとも事故・工事渋滞でしょうか？渋滞が発生して停止車両もいるようです。D車が急ブレーキを踏んでいますね。漫然と運転していたのでしょうか？よくある光景ですが、この中にも問題が潜んでいます。確認しましょう！



【A、B車の状況】

A、B車は、完全に停止状態ですが、ブレーキしか踏んでいないようです。後方から接近してくる後続車両のことなど関心がないようです。



【A、B車のリスク】

- ① 後続車がこの渋滞に早くから気づき、減速しているとは限りません。ノーブレーキで渋滞停止車両に追突し、前車に玉突き。最悪、炎上して、多くの人命が危険にさらされます。後続車が大型車だった場合・・・、結果は想像できますよね。
- ② 高速道路を走行する際は、前方の安全確認も重要ですが、同様に後続車両への意識が必要です。

【C車の状況】

C車は、前方の渋滞に気づき、ブレーキを踏んでいるようですが、ハザードランプは点灯させていないようです。バスがハザードを点ければ、自分までは必要ないと考えています。



【C車のリスク】

- ① 最近はずぐにブレーキを踏んで速度調整する車が増えています。後続のD車は、C車が速度調整のブレーキを踏んでいる程度だと勘違いして、一気にその間隔を埋め、追突事故の危険が増えています。
- ② 早くハザードランプを点滅させ、D車に知らせなければ、追突されてしまいます。

【D車の状況】

D車は、脇見をしていたのか、ぼんやりしていたのか、直前まで渋滞に気付いていませんでした。気付けば渋滞。慌てて急ブレーキをかけています。



【D車のリスク】

- ① もはや、自動車の制動性能と運に身を任せるしかありません。でも最後まで諦めずに回避行動することが大事です。
- ② ハンドルを切って回避しても、周辺車両と衝突する恐れが高く、重大事故や多重事故のきっかけを作る原因となるでしょう。

じゃあ、どうすればいいの？

ハザードランプを活用し、ポンピングブレーキで後続車に危険を知らせる思いやりが大切です。

高速道路走行は、前方の安全確認以上に後方に対する意識が大切です。ポンピングブレーキを踏むためには、十分な車間距離が必要です。思いやり運転が出来ればあなたも模範ドライバー！

安全な高速道路の走り方

～絶対に守りたい高速走行の6つの約束～

- ① 追越車線ばかりを走らない！
- ② 安全な速度と車間距離を保持する！
- ③ 「高速道路を走っている」という意識で適度な緊張感を保持する！
- ④ 運行計画など事前の準備と、万が一に備えた停止表示器材の携行を守る！
- ⑤ 前方だけでなく、後方への安全意識を持ち、防衛運転に努める！
- ⑥ 他車を思いやる気持ちで運転する！